

令和3年度実施施策に係る政策評価書

(農林水産省3-⑩)

政策分野名 【施策名】	森林の有する多面的機能の発揮					
政策の概要 【施策の概要】	適切な森林施業の確保、面的なまとまりをもった森林管理、再造林の推進、野生鳥獣による被害への対策の推進、適切な間伐等の推進、路網整備の推進、複層林化と天然生林の保全管理等の推進、カーボンニュートラル実現への貢献、国土の保全等の推進、新たな山村価値の創造、国民参加の森林づくり等の推進、国際的な協調及び貢献等					
政策の予算額・執行額等 【施策の予算額・執行額等】 (※)	区分		元年度	2年度	3年度	4年度
	予算の 状況 (百万 円)	当初予算(a)	199,955 <125,067> の内数	192,584 <126,219> の内数	163,082 <25,048> の内数	163,739 <23,931> の内数
		補正予算(b)	20,515 <40,130> の内数	72,553 <36,885> の内数	42,898 <46,292> の内数	-
		繰越し等(c)	△19,749 <△5,019> の内数	△46,038 <△260> の内数		
		合計(a+b+c)	200,721 <160,178> の内数	219,099 <162,844> の内数		
執行額(百万円)		196,217 <155,099> の内数	211,264 <154,987> の内数			
政策に関する内閣の 重要政策 【施策に関する内閣の 重要政策】 (施政方針演説等のうち主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林・林業基本計画(令和3年6月15日閣議決定) 第3の1</li> <li>・全国森林計画(令和3年6月15日閣議決定) IIIの2</li> <li>・森林整備保全事業計画(令和元年5月28日閣議決定) 第2</li> <li>・成長戦略2019(令和元年6月21日閣議決定) IIIの7</li> <li>・農林水産省地球温暖化対策計画(平成29年3月14日決定、令和3年10月27日改定)</li> </ul>					

※1 一般会計、特別会計を問わず政策ごとの予算等の合計額を記載している。

※2 複数政策に関連する予算については、<>外書きについて記載している。

※3 執行額については、政策評価の対象とはしていないが特定の政策に位置付けられるものについても計上している。

施策(1)	適切な森林施業の確保										
目標①【達成すべき目標】	適正な伐採と更新の確保										
測定指標	ア 齢級(注1)別面積の分散	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類	
		年度	29年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			5年度
		実績値		-							
達成度合 い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )		-	S↑-差		
年度ごとの目標値		0%	-	-	26%	P	P	26%			
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の8月 算出方法: 5年に1度の森林資源現況調査に基づき把握(次回の実績把握は令和5年度)										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=(当該基準年度分散-当該年度分散(実績(見込)値)/(当該基準年度分散-当該年度分散(目標値))×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											

施策(2)		面的なまとまりをもった森林管理									
目標①【達成すべき目標】		森林の経営管理の集積等									
測定指標	ア 私有人工林における集積・集約化の目標(私有人工林の5割)に対する達成割合	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		27年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	10年度			
		実績値	(8月把握予定) (暫定値)								
	達成度合い	( : )	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値		71%	79%	81%	84%	86%	89%	100%		S↑-差	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度8月頃に把握予定) 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】		森林関連情報を森林クラウド(注2)に集積し、共有と高度利用を推進									
測定指標	ア 森林関連情報の整備・提供に係る指標(令和4年度に設定)	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度			
		実績値	-								
	達成度合い	-	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値		P	-	P	P	P	P	P	-	P	
把握の方法	出典:- 作成時期:- 算出方法:-										
達成度合いの判定方法	-										
備考											

施策(3)		再造林の推進									
目標①【達成すべき目標】		成長に優れたエリートツリー(注3)等の種苗の生産体制を整備									
測定指標	ア 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		304万本 (令和2年度)							
	達成度合い		(A: 105%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本	A	S↑-差	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定) 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考	一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。										
目標②【達成すべき目標】		造林適地を抽出する技術の普及									
測定指標	ア 造林適地を抽出する技術の普及に係る指標(令和5年度に設定)		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		年度	P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度		
		実績値		-							
	達成度合い		-	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		P	-	P	P	P	P	P	-	P	
把握の方法	出典:- 作成時期:- 算出方法:-										
達成度合いの判定方法	-										
備考											

目標③【達成すべき目標】		再造林の確実な実施、省力かつ低コストの造林体系の確立										
測定指標	ア 令和3年度以降に人工造林を実施した面積		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度			
		実績値		(7月把握予定) (暫定値)								
	達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値			0万ha	3万ha	8万ha	13万ha	19万ha	26万ha	70万ha		S↑-差	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握											
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満											
備考												
測定指標	イ 人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類	
		年度	29年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度			
		実績値		(7月把握予定) (暫定値)								
	達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値			22%	37%	40%	44%	P	P	44%		F↑-差	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握											
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満											
備考												
施策(4)		野生鳥獣による被害への対策の推進										
目標①【達成すべき目標】		鳥獣害防止森林区域を設定し、必要な対策を実施										
測定指標	ア 鳥獣害防止森林区域を設定した市町村のうち、シカ被害発生面積が減少した市町村の割合		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度			
		実績値		59% (令和2年度)								
	達成度合い		(B: 98%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値			59%	対前年度以上 (令和2年度)	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上		B	F↑-直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度10月頃 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値と令和元年度実績値との比較により評価を実施。											
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/前年度実績値×100 Aランク: 100%以上、Bランク: 50%以上100%未満、Cランク: 50%未満											
備考	令和2年度の実績値が確定したため、基準値(令和2年度実績値)を修正した。											

施策(5)	適切な間伐(注4)等の推進										
目標①【達成すべき目標】	間伐等を推進										
測定指標		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			12年度
	ア 令和3年度以降に間伐等を実施した面積	実績値	/	(7月把握予定) (暫定値)							/
	達成度合い	/	( : )	( : )	( : )	( : )	( : )	/	S↑-直		
年度ごとの目標値		0万ha	38万ha	78万ha	120万ha	163万ha	207万ha	450万ha			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
施策(6)	路網整備の推進										
目標①【達成すべき目標】	路網整備の徹底										
測定指標		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類	
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			17年度
	ア 林道等の整備量	実績値	/	19.60万 km(暫定 値)							/
	達成度合い	/	(B: 85%)	( : )	( : )	( : )	( : )	/	B	S↑-差	
年度ごとの目標値		19.49万 km	19.62万 km	19.69万 km	19.76万 km	19.84万 km	19.93万 km	21万km			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(7)		複層林(注5)化と天然生林の保全管理等の推進									
目標①【達成すべき目標】		針広混交林化の取組等を推進									
測定指標	ア 育成単層林のうち、育成複層林へ誘導した森林の割合	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
			30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値	/	(7月把握予定) (暫定値)					/		
	達成度合い	/	( : )	( : )	( : )	( : )	( : )	/			
年度ごとの目標値			1.9%	2.5%	2.7%	2.9%	P	P	2.9%		S↑-差
把握の方法		出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満									
備考											
目標②【達成すべき目標】		公的主体による森林整備を推進									
測定指標	ア 公的な関与による森林整備に係る指標(令和4年度に設定を検討)	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
			P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度		
		実績値	/	-					/		
	達成度合い	/	-	( : )	( : )	( : )	( : )	/			
年度ごとの目標値			P	-	P	P	P	P	P	-	P
把握の方法		出典:- 作成時期:- 算出方法:-									
達成度合いの判定方法		-									
備考											

目標③【達成すべき目標】	花粉症対策に資する苗木の生産や植栽										
測定指標	ア 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数【再掲】		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		304万本 (令和2年度)							
	達成度合い		(A: 105%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本	A	S↑-差	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考	一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。										
施策(8)	カーボンニュートラル実現への貢献										
目標①【達成すべき目標】	適切な間伐の実施、エリートツリー等の再造林を促進、木材の利用の拡大を通じたHWP(伐採木材製品)(注6)による炭素の貯蔵										
測定指標	ア 令和3年度以降に間伐等を実施した面積【再掲】		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		(7月把握予定) (暫定値)							
	達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		0万ha	38万ha	78万ha	120万ha	163万ha	207万ha	450万ha		S↑-直	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

測定指標	イ 林業用苗木のうち、エリートツリー等の苗木の本数【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		304万本 (令和2年度)							
		達成度合い		(A:105%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	S↑-差
	年度ごとの目標値		283万本	303万本 (令和2年度)	359万本	401万本	454万本	518万本	3,000万本		
把握の方法	出典：林野庁調べ 作成時期：調査年度の翌年度3月頃（暫定値は調査年度の翌年度12月頃把握予定） 算出方法：都道府県からの実績報告。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考	一部の県からの令和元年度実績報告に誤計上があったことが判明したため、基準値(令和元年度実績値)を修正した。										
測定指標	ウ 令和3年度以降に人工造林を実施した面積【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		(7月把握予定) (暫定値)							
		達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )			S↑-差
	年度ごとの目標値		0万ha	3万ha	8万ha	13万ha	19万ha	26万ha	70万ha		
把握の方法	出典：林野庁調べ 作成時期：調査年度の翌年度12月頃（暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定） 算出方法：都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	エ 国産材の供給量	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		3,100万 m3 (令和2年度)							
		達成度合い		(A:97%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	F↑-直
	年度ごとの目標値		3,100万 m3	3,200万 m3 (令和2年度)	3,400万 m3	3,600万 m3	3,800万 m3	4,000万 m3	4,000万 m3		
把握の方法	出典：木材需給報告書 作成時期：調査年度の翌年度9月末頃 算出方法：木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(9)		国土の保全等の推進									
目標①【達成すべき目標】		保安林(注7)を計画的に指定									
測定指標	ア 保安林の面積	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	15年度		
		実績値		(7月末 頃把握 予定)							
		達成度合 い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		1,221万 ha	1,237万 ha	1,243万 ha	1,248万 ha	1,253万 ha	1,259万 ha	1,301万 ha			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度7月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】		「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等に基づき治山対策を推進、海岸防災林等の整備強化									
測定指標	ア 治山対策を実施したことにより 周辺の森林の山地災害防止 機能等が確保される集落の数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		57.2千 集落 (暫定 値)							
		達成度合 い		(B:71%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		56.2千 集落	57.6千 集落	58.1千 集落	58.6千 集落	P	P	58.6千 集落			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:100%超、Aランク:80%以上100%未満、Bランク:50%以上80%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	イ 適切に保全されている海岸 防災林等の割合	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度		
		実績値		98% (暫定 値)							
		達成度合 い		(A:98%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		96%	98%	99%	100%	P	P	100%			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度6月頃把握予定) 算出方法:都道府県からの実績報告により把握										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=(海岸防災林等の延長-(機能が低下した海岸防災林等の延長-当該年度までに治山事業により機能の回復した海岸防 災林等の延長))/(海岸防災林等の延長)×100 Aランク:90%以上、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

目標③【達成すべき目標】		松くい虫(注8)対策等については、防除を引き続き実施、対策については被害先端地に重点化									
測定指標	ア 保全すべき松林(注9)の被害率が1%未満の「微害」に抑えられている都府県の割合	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		85% (令和2年度)							
達成度合い			(A:97%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	F↑一直	
年度ごとの目標値		85%	88% (令和2年度)	93%	95%	98%	100%	100%			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度8月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		実績値の算定に当たっては、これまで松くい虫被害の発生していない北海道を除く46都府県の割合により算定する。 達成度合い(%)=当年度実績(見込)値/当年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
測定指標	イ 高緯度・高標高の被害先端地域が存する都府県の保全すべき松林の被害率に対する全国の保全すべき松林における被害率の割合	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度		
		実績値		100% (令和2年度)							
達成度合い			(A:100%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	F=一直	
年度ごとの目標値		100%	100%以上 (令和2年度)	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上	100%以上			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度8月頃 算出方法:都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		被害先端地域が存する都府県の保全松林の被害率を、当該年度の全国の保全松林における被害率以下に減少させる。 達成度合い(%)=(全国の保全松林の被害率)/(先端地域が存する都府県の保全松林被害率)×100 Aランク:90%以上、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考		令和2年度の実績値が確定したため、基準値(令和2年度実績値)を修正した。									
施策(10)		新たな山村価値の創造									
目標①【達成すべき目標】		未利用材の熱利用などを推進									
測定指標	ア 国産の燃料材利用量	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		893万 m3 (令和2年度)							
達成度合い			(A:128%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	F↑一直	
年度ごとの目標値		693万 m3	700万 m3 (令和2年度)	740万 m3	760万 m3	780万 m3	800万 m3	800万 m3			
把握の方法		出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の12月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

目標②【達成すべき目標】		「緑の雇用」事業(注10)によるトライアル雇用等を契機とした移住・定住の促進								達成	指標- 計算分類
測定指標	ア 新規就業者(林業作業士(フォレストワーカー)(注11)1年目研修生)の就業3年後の定着率	基準値		実績値・達成度合い					目標値	A	F↑-直
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		72%							
		達成度合い		(A: 96%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		73%	75%	76%	78%	79%	80%	80%			
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の7月頃 算出方法: 「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の実績により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											
目標③【達成すべき目標】		「森林サービス産業」(注12)の推進								達成	指標- 計算分類
測定指標	ア 「森林サービス産業」に取り組む地域数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	A	S↑-差
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		21地域							
		達成度合い		(A: 105%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		0地域	20地域	30地域	35地域	40地域	45地域	45地域			
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度5月頃 算出方法: 都道府県への聞き取りにより把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											

施策(11)	国民参加の森林づくり等の推進										
目標①【達成すべき目標】	多様な主体による植樹など森林づくり活動の促進										
測定指標	ア フォレストサポーターズ(注13)の登録数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		7.0万件							
	達成度合い		(A: 100%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		6.9万件	7.0万件	7.0万件	7.1万件	7.1万件	7.2万件	7.2万件	A	S↑-直	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度4月 算出方法: 制度運営団体の情報により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	イ 森林ボランティア団体数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		4,474団体							
	達成度合い		(A:99%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		4,502団体	4,512団体	4,522団体	4,542団体	4,562団体	4,582団体	4,582団体	A	S↑-直	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度4月 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	ウ 民有林における企業による森林づくり活動の実施箇所数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		1,118箇所(令和2年度)							
	達成度合い		(A: 101%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		1,101箇所	1,111箇所(令和2年度)	1,131箇所	1,144箇所	1,157箇所	1,170箇所	1,170箇所	A	S↑-直	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度9月頃 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(12)	国際的な協調及び貢献									
目標①【達成すべき目標】	開発途上地域における森林減少・劣化の抑制、山地災害の防止、違法伐採対策等に貢献									
測定指標		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
	ア 持続可能な森林経営(注14)を推進する民間団体等による国際協力プロジェクト数	実績値		99件						
		達成度合い		(A: 108%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A
	年度ごとの目標値		90件	92件	94件	96件	97件	99件	99件	
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度5月 算出方法: JICA及び公益法人等からの実績報告により把握									
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満									
備考										

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
	測定指標についての要因分析 (達成度合いが悪い場合等) 【施策の分析】	<p>(判断根拠) 政策分野⑱「森林の有する多面的機能の発揮」については、測定指標数29個のうち、Aが14個、Bが3個、Cが0個となっており、A'、A及びB(ただし、前年度の実績値を下回った指標を除く)が半数以上、かつ、Cが4分の1以下であることから、令和4年度農林水産省政策評価実施計画に基づき、「③相当程度進展あり」と判定した。</p> <p>【(X)⊗( )】測定指標名</p> <p>① 施策(政策分野)及び測定指標をめぐる社会の動向</p> <p>② 測定指標の目標達成に向けた主な取組</p> <p>③ 目標の達成状況に影響したと考えられる要因の分析</p>	
	次期目標等への反映の方向性	【(X)⊗( )】測定指標名	

学識経験を有する者の知見の活用	
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	
---------------------------	--

評価結果の政策への 反映状況 (主なもの)	予算	
	税制	
	その他 (法令、組織、定員等)	

担当部局名	林野庁 【林野庁計画課/森林利用課/整備課/治山課/研究指導課/経営課/木材産業課/経営企画課/業務課/企画課】	政策評価実施 時期	令和4年8月
-------	---	--------------	--------

## 参 考

### 用語解説

注1 齢級	齢級は、林齢を5年の幅でくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1齢級」と数える。
注2 森林クラウド	これまで各ユーザ(都道府県、市町村、森林組合等)で管理していた森林情報を、クラウド上で一元的に管理するシステム。また、GISの機能を持ち、属性情報や地図情報を管理する機能を持つ。
注3 エリートツリー	国立研究開発法人森林研究・整備機構により、成長や材質等の形質が良い精英樹同士の人工交配等から得られた個体の中から選抜された、成長等がより優れた精英樹のこと。
注4 間伐	育成段階にある森林において、樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採(間引き)し、残存木の成長を促進する作業。この作業により生産された丸太が間伐材。一般に、除伐後から、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に実施。
注5 複層林化	針葉樹一斉人工林を帯状、群状等に択伐し、その跡地に人工更新等により複数の樹冠層を有する森林を造成すること。
注6 HWP(伐採木材製品)	「Harvested Wood Products」の略。パリ協定において、搬出後の木材における炭素量の変化を温室効果ガス吸収量又は排出量として計上することができる。
注7 保安林	森林のうち、水源のかん養、土砂の流出防備、土砂の崩壊防備などの公益的機能の発揮を目的として、農林水産大臣又は都道府県知事により指定された森林。
注8 松くい虫	「松くい虫」という名の虫は存在せず、松くい虫被害の正式名称は「マツ材線虫病」である。松くい虫被害は、体長約1mmの外来種である「マツノザイセンチュウ」が在来種であるマツノマダラカミキリ等に運ばれてマツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる現象であり、これらを総称して「松くい虫」と呼んでいる。
注9 保全すべき松林	保安林や景勝地、せき悪地の松林など、公益的機能が高く将来的に保全する必要がある松林であって、松以外の樹種では当該機能を確保することが困難な松林として都道府県知事が指定する高度公益機能森林及び、松林としての機能を確保しつつ、高度公益機能森林への被害の拡大を防止する措置を実施することが適当な松林として市町村長が指定する地区保全森林。
注10 「緑の雇用」事業	未経験者でも林業に就き必要な技術を学ぶため、林業経営体に採用された人に対し講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度。研修年次に応じて研修の内容をステップアップさせ、さまざまな技能を身につけられるよう体系的な研修プログラムが用意されている。
注11 林業作業士(フォレストワーカー)	新規就業者を対象とした安全かつ効率的な作業に必要な知識・技術・技能を習得するための3年間の体系的な研修を修了し登録された者。
注12 「森林サービス産業」	山村の活性化に向けた「関係人口」の創出・拡大のため、森林空間を健康、観光、教育等の多様な分野で活用する新たなサービス産業。
注13 フォレストサポーターズ	個人や企業等が「フォレスト・サポーター」として運営事務局に登録を行い、日常の生活や業務の中で自発的に森林整備や木材利用に取り組む仕組み。
注14 持続可能な森林経営	動的で進化する概念として、全てのタイプの森林の経済、社会、環境的価値を現在及び将来世代の便益のために維持し、高めることを目的に森林を管理し又は経営すること。

※ 測定指標の詳細については令和3年度事前分析表、政策手段については令和4年度事前分析表をご覧ください。

令和3年度実施施策に係る政策評価書

(農林水産省3-⑩)

政策分野名 【施策名】	林業の持続的かつ健全な発展					
政策の概要 【施策の概要】	望ましい林業構造の確立、担い手となる林業経営体の育成、人材の育成・確保等、林業従事者の労働環境の改善、特用林産物の生産振興等					
政策の予算額・執行額等 【施策の予算額・執行額等】 (※)	区分		元年度	2年度	3年度	4年度
	予算の 状況 (百万 円)	当初予算(a)	539 <24,152> の内数	532 <24,730> の内数	424 <14,208> の内数	334 <13,172> の内数
		補正予算(b)	- <34,157> の内数	- <111,706> の内数	- <46,292> の内数	-
		繰越し等(c)	- <3,735> の内数	- <△44,576> の内数		
		合計(a+b+c)	539 <62,044> の内数	532 <91,860> の内数		
執行額(百万円)		526 <51,156> の内数	492 <86,681> の内数			
政策に関する内閣の 重要政策 【施策に関する内閣の 重要政策】 (施政方針演説等のうち主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林・林業基本計画(令和3年6月15日閣議決定) 第3の2</li> <li>・食料・農業・農村基本計画(令和2年3月31日閣議決定) 第2</li> <li>・森林整備保全事業計画(令和元年5月28日閣議決定) 第2</li> <li>・成長戦略2019(令和元年6月21日閣議決定) IIIの7</li> <li>・林業イノベーション現場実装推進プログラム(令和元年12月農林水産省策定)</li> </ul>					

※1 一般会計、特別会計を問わず政策ごとの予算等の合計額を記載している。

※2 複数政策に関連する予算については、<>外書きについて記載している。

※3 執行額については、政策評価の対象とはしていないが特定の政策に位置付けられるものについても計上している。

施策(1)		望ましい林業構造の確立										
目標①【達成すべき目標】		造林コストの低減、遠隔操作・自動操作機械等の開発・普及、高度な森林関連情報の把握及びICTを活用した木材の生産流通管理等の効率化										
測定指標	ア 人工造林面積のうち、造林の省力化や低コスト化を行った面積の割合【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類	
		年度	29年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度			
		実績値		(7月把握予定) (暫定値)								
		達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値			22%	37%	40%	44%	P	P	44%		F↑－差	
把握の方法		出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度12月頃(暫定値は調査年度の翌年度7月頃把握予定) 算出方法: 都道府県等からの実績報告により把握										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)÷(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
測定指標	イ 自動化等の機能を持った高性能林業機械(注1)等の実用化件数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値		2件								
		達成度合い		-	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値			0件	-	2件	4件	6件	8件	8件		S↑－直	
把握の方法		出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度7月頃 算出方法: 補助事業終了後5年間提出される進捗状況等報告書や聞き取り調査にて状況を判定										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値÷当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
測定指標	ウ スマート林業(注2)をモデル的に導入した都道府県数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類	
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	6年度			
		実績値		21都道府県								
		達成度合い		(A: 113%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値			12都道府県	20都道府県	28都道府県	37都道府県	47都道府県	-	47都道府県		S↑－差	
把握の方法		出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃 算出方法: 林野庁の補助事業の実施状況及び県への取組等の聞き取り										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値－基準値)÷(当該年度目標値－基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												

施策(2)		担い手となる林業経営体の育成									
目標①【達成すべき目標】		長期的な経営の確保									
測定指標	ア 私有人工林における集積・集約化の目標(私有人工林の5割)に対する達成割合【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	27年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	10年度		
		実績値		(8月把握予定) (暫定値)							
		達成度合い		( : )	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		71%	79%	81%	84%	86%	89%	100%			S↑-差
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃(暫定値は調査年度の翌年度8月頃に把握予定) 算出方法: 都道府県からの実績報告により把握。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】		施業集約化を担う森林施業プランナー(注3)の育成、木材の有利販売等を担う森林経営プランナー(注4)の育成									
測定指標	ア 認定森林施業プランナーの現役人数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		2,206人							
		達成度合い		(C: 29%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		2,167人	2,300人	2,433人	2,566人	2,700人	2,833人	3,500人			C S↑-差
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度4月頃 算出方法: 森林施業プランナー協会の認定・更新情報により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	イ 認定森林経営プランナーの現役人数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		67人							
		達成度合い		(B: 67%)	( : )	( : )	( : )	( : )			
年度ごとの目標値		0人	100人	300人	500人	500人	500人	500人			B S↑-差
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度8月頃 算出方法: 森林施業プランナー協会の認定・更新情報により把握										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

目標③【達成すべき目標】		林業経営体の生産性の向上									
測定指標	ア 林業経営体の労働生産性 (主伐)	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		7m3/ 人・日 (令和2 年度)							
達成度合 い		(B: 88%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値		7m3/ 人・日	8m3/ 人・日 (令和2 年度)	8m3/ 人・日	9m3/ 人・日	9m3/ 人・日	9m3/ 人・日	11m3/ 人・日		B	F↑一直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃 算出方法: 都道府県からの回答データを分析して把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											
測定指標	イ 林業経営体の労働生産性 (間伐)	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度		
		実績値		4m3/ 人・日 (令和2 年度)							
達成度合 い		(B: 80%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値		4m3/ 人・日	5m3/ 人・日 (令和2 年度)	5m3/ 人・日	6m3/ 人・日	6m3/ 人・日	6m3/ 人・日	8m3/ 人・日		B	F↑一直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度3月頃 算出方法: 都道府県からの回答データを分析して把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											
目標④【達成すべき目標】		造林作業手の育成・確保									
測定指標	ア 安全かつ効率的な技術を有する新規就業者数(林業作業士(フォレストワーカー)(注5)1年目研修生の人数)	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度		
		実績値		734人 (令和2 年度)							
達成度合 い		(B: 61%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値		772人	1,200人 (令和2 年度)	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人		B	F=一直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌年度7月頃 算出方法: 「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の実績により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											

施策(3)		人材の育成・確保等										
目標①【達成すべき目標】		「緑の雇用」事業等により、人材育成を推進										
測定指標	ア 安全かつ効率的な技術を有する新規就業者数(林業作業士(フォレストワーカー)1年目研修生の人数)【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類	
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度			
		実績値		734人 (令和2年度)								
		達成度合い		(B: 61%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		772人	1,200人 (令和2年度)	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人		B	F=一直
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度7月頃 算出方法:「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の実績により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
測定指標	イ 新規就業者(林業作業士(フォレストワーカー)1年目研修生)の就業3年後の定着率【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類	
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値		72%								
		達成度合い		(A:96%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		73%	75%	76%	78%	79%	80%	80%		A	F=一直	
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の7月頃 算出方法:「緑の雇用」新規就業者育成推進事業の実績により把握										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												
測定指標	ウ 統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)等(注6)の育成人数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類	
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値		4,785人 (暫定値)								
		達成度合い		(A: 107%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		3,128人	4,670人	5,570人	6,250人	6,730人	7,200人	7,200人		A	S↑-差	
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度7月頃(令和3年度の暫定値については令和4年5月に把握) 算出方法:現場技能者キャリアアップ・林業労働安全対策の実績により把握										
達成度合いの判定方法		達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考												

施策(4)	林業従事者の労働環境の改善										
目標①【達成すべき目標】	林業従事者の通年雇用化										
測定指標	ア 森林組合雇用労働者の年間就業日数210日以上の割合	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	66% (令和2年度)						達成度合い		
	年度ごとの目標値	65%	68%(令和2年度)	71%	73%	75%	77%	77%	A	F↑一直	
把握の方法	出典:森林組合統計(林野庁) 作成時期:調査年度の翌年度3月頃 算出方法:(目標年度の年間210日以上就業した組合雇用労働者数)/(組合雇用労働者数の総数)×100。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】	死傷年千人率(注7)を半減										
測定指標	ア 林業の死傷年千人率	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		2年	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年			
		実績値	(7月把握予定)						達成度合い		
	年度ごとの目標値	25.5年千人率	24.2年千人率	23.0年千人率	21.7年千人率	20.4年千人率	19.1年千人率	12.8年千人率	F↓一差		
把握の方法	出典:厚生労働省「業種別死傷年千人率」 作成時期:調査年度の翌年度7月頃 算出方法:年千人率=(1年間の死傷者数/1年間の平均労働者数)×1,000										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=(当該年度実績(見込)値-基準値)/(当該年度目標値-基準値)×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
施策(5)	特用林産物の生産振興										
目標①【達成すべき目標】	菌床きのこ培養施設など生産基盤の整備										
測定指標	ア 国産きのこの生産量	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	12年度			
		実績値	46.2万トン(令和2年度)						達成度合い		
	年度ごとの目標値	47万トン	47.0万トン(令和2年度)	47.4万トン	47.6万トン	47.8万トン	48.0万トン	49万トン	A	F↑一直	
把握の方法	出典:特用林産物生産統計調査 作成時期:調査年度の翌年度8月末(暫定値は調査年度の翌年度6月末) 算出方法:調査票の集計による(各都道府県等経由)。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
	測定指標についての要因分析 (達成度合いが悪い場合等) 【施策の分析】	<p>【(2)①(ア)】認定森林施業プランナーの現役人数 認定森林施業プランナーの現役人数については、令和3年度の実績値が2,206人で、達成度合いが29%で「C」となった。このことに係る要因分析は以下のとおり。</p> <p>① 施策(政策分野)及び測定指標をめぐる社会の動向</p> <p>私有林が森林の6割を占め、小規模零細な所有構造である我が国において、森林施業プランナーは、森林所有者に施業内容やコスト等を明示する施業提案を行い、施業の集約化推進を担う重要な技能者である。</p> <p>平成20年台前半は、路網整備、機械化の遅れ等による林業採算性の低下等から森林所有者の林業離れが進み、資源が十分に活用されないのみならず、必要な施業が行われず多面的機能の発揮が損なわれ、荒廃さえ危惧される状況にあった。この状況を打開するための対応策の1つとして、平成23年に閣議決定された「森林・林業基本計画」において、その育成を推進することとされた。</p> <p>認定の始まった平成24年度以降、国は研修の実施等を通じて育成を支援し、平成31年4月時点で総認定者数が前回の政策評価目標である認定者数2,100人を超え、2,299人となった。その間、我が国の素材生産量は着実に増加し、森林施業プランナーの約8割が在籍する森林組合系統における素材生産量は、411万㎡(平成24年度)から660万㎡(令和元年度)へと約6割増加した。</p> <p>森林所有者数(※)は356万人(H24)から349万人(R2)と大きく変わっておらず、また、森林所有者からの委託等を受けて林業経営体が行う素材生産の量が全体の約8割を占める構図も変わっていないため、林業において所有者への施業提案を行う森林施業プランナーの必要性は変わっていない。</p> <p>現在の目標は、近年、主伐後の再造林の重要性が高まっている状況に対応するために必要な森林施業プランナーの育成に向け、令和2年度までの総認定者数から、引退人数を加味した現役人数に指標を変更し、新たに設定したものである。</p> <p>認定森林施業プランナーになるには、森林所有者への施業の提案や実行に必要な技術、経営に係る知識・能力を問う筆記一次試験等による審査を試験会場において受ける必要がある。</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、緊急事態宣言等の発出による国民への移動の自粛要請などの措置が取られたため、認定の始まった平成24年度から令和元年度までの平均と比べて、受験者数が46%の減少となったところ。</p> <p>※総務省「固定資産の価格等の概要調書」の「第3表 納税義務者区分による土地に関する調(法定免税点以上のもの)」の「一般山林」の納税義務者数</p> <p>② 測定指標の目標達成に向けた主な取組</p> <p>森林施業プランナーの育成のために、林業経営体において森林経営計画の作成や事業管理等を担当する者を対象として、施業提案等の森林施業プランナーに必要とされる技能向上に係る研修の実施を支援したところであり、令和3年度は、オンライン研修も含め132名が研修を受講した。また、都道府県を通じて、地域における森林施業プランナー向けの研修の実施に対しても支援を行った。</p> <p>③ 目標の達成状況に影響したと考えられる要因の分析</p> <p>①のとおり、前回の政策評価(令和元年度)では目標を達成しており、取組そのものは一定の成果を挙げている。</p> <p>森林施業プランナーの必要性は変化していないが、令和3年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による移動自粛等に伴い受験者数及び認定者数が減少したことが、目標の達成状況に影響したと考えられる。</p>	
	次期目標等への反映の方向性	<p>【(2)①(ア)】認定森林施業プランナーの現役人数 令和元年度以降、新規認定を目指す者を対象とした研修の実施は、都道府県への交付金により支援してきたが、令和4年度からは、都道府県における研修の実施状況を勘案しながら、国においても研修の実施を補助金により支援することとしたところであり、これらの研修の機会の提供を通じて、認定者数を増やすよう努めてまいりたい。</p> <p>また、認定森林施業プランナーを配置している経営体を、高性能林業機械の導入等の補助事業における優先採択等の対象とすることに検討することも含めて、資格取得に対するインセンティブを高めてまいりたい。</p>	

学識経験を有する者の知見の活用	
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	
---------------------------	--

評価結果の政策への 反映状況 (主なもの)	予算	
	税制	
	その他 (法令、組織、定員等)	

担当部局名	林野庁 【林野庁経営課/計画課/森林利用課/整備課/研究指導課/経営企画課/業務課/企画課】	政策評価実施 時期	令和4年8月
-------	---	--------------	--------

## 参 考

### 用語解説

注1 高性能林業機械	従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べ、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械のこと。主な高性能林業機械として、フェラーバンチャ、ハーベスタ、プロセッサ、スキッド、フォワーダ、タワーヤード、スイングヤードなどがある。
注2 スマート林業	国内の労働人口は減少することが予測されている中で、林業においてもICT 技術を活用し、1人当たりの生産性を向上させると共に、労働安全の確保、雇用形態の安定化などによる担い手の確保・育成を進める。
注3 森林施業プランナー	路網計画や間伐方法等の森林施業の方針、利用間伐等の事業収支を示した施業提案書を作成し、それを森林所有者に提示して、合意形成と森林施業の集約化ができる者。森林施業プランナーの現状は、技能・知識・実践力のレベルが様々であることや、森林経営計画の作成の中核を担うものとして期待されていることから、その能力を客観的に評価し、一定の質を確保するとともに、その能力向上を図る上でインセンティブとなる森林施業プランナーの認定制度の運用を平成24年度から開始した。
注4 森林経営プランナー	森林の公益的機能・森林整備の重要性を理解した上で、社会情勢や需要に即した木材の有利販売等による収益の最大化と収穫後の資源循環に取り組み、循環型林業を目指し実践する経営人材。
注5 林業作業士(フォレストワーカー)	新規就業者を対象とした安全かつ効率的な作業に必要な知識・技術・技能を習得するための3年間の体系的な研修を修了し登録されたもの。
注6 統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)等	低コストで効率的な作業システムにより間伐等を行う作業班を適切に管理できる現場技能者であり、段階的かつ体系的な研修を終了し登録された者。複数の現場を統括管理する統括現場管理責任者(フォレストマネージャー)のほか、各現場の管理を担当する現場管理責任者(フォレストリーダー)が該当する。
注7 死傷年千人率	1年間の労働者1,000人当たりが発生した死傷者数の割合を示すもの。

※ 測定指標の詳細については令和3年度事前分析表、政策手段については令和4年度事前分析表をご覧ください。

令和3年度実施施策に係る政策評価書

(農林水産省3-①)

政策分野名 【施策名】	林産物の供給及び利用の確保					
政策の概要 【施策の概要】	原木の安定供給、木材産業の競争力強化、都市等における木材利用の促進、生活関連分野等における木材利用の促進、木質バイオマスの利用、木材等の輸出促進、消費者等の理解の醸成等					
政策の予算額・執行額等 【施策の予算額・執行額等】 (※)	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	
	予算の 状況 (百万 円)	当初予算(a)	1,930 <30,880> の内数	2,001 <31,533> の内数	1,020 <21,041> の内数	729 <19,897> の内数
		補正予算(b)	32 <33,957> の内数	3,237 <34,360> の内数	- <46,009> の内数	-
		繰越し等(c)	△78 <3,963> の内数	△349 <△2,011> の内数		
		合計(a+b+c)	1,884 <68,800> の内数	4,889 <63,882> の内数		
執行額(百万円)	1,795 <64,630> の内数	4,221 <58,122> の内数				
政策に関する内閣の 重要政策 【施策に関する内閣の 重要政策】 (施政方針演説等のうち主な もの)	・森林・林業基本計画(令和3年6月15日閣議決定) 第3の3 ・農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略(令和2年12月15日農林水産省・地域の活力創造本部決定、令和3年12月24日改訂)					

- ※1 一般会計、特別会計を問わず政策ごとの予算等の合計額を記載している。
- ※2 複数政策に関連する予算については、<>外書きについて記載している。
- ※3 執行額については、政策評価の対象とはしていないが特定の政策に位置付けられるものについても計上している。

施策(1)	原木の安定供給										
目標①【達成すべき目標】	原木を安定的に供給する体制への転換										
測定指標	ア 国産材の供給量【再掲】	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
	実績値		3,100万 m3 (令和2 年度)							A	F↑一直
	達成度合 い		(A:97%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		3,100万 m3	3,200万 m3 (令和2 年度)	3,400万 m3	3,600万 m3	3,800万 m3	4,000万 m3	4,000万 m3			
把握の方法	出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の翌年度9月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】	川上と川中(注1)との協定取引や直送等の取組を推進										
測定指標	ア 素材生産者から製材工場等 への直送率	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	5年度			
	実績値		-							-	F↑一直
	達成度合 い		-	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値		40%	-	-	51%	-	-	51%			
把握の方法	出典:木材流通構造調査 作成時期:調査年度翌年度の8月頃に公表(次回は令和5年度に調査実施予定) 算出方法:公表資料を基に木材産業課で試算										
達成度合いの 判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考	統計値(平成30年木材流通構造調査報告書のうち素材の入荷先別入荷量及び仕入金額の数値)に修正があったため、基準値(平成30年度実績値)を修正した。										

施策(2)	木材産業の競争力強化										
目標①【達成すべき目標】	建築用材市場における需要を獲得していくため、製品を低コストで安定的に供給										
測定指標	ア 建築用材における国産材利用量	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	1,600万 m3 (令和2 年度)								
達成度合い		(B:84%)	( : )	( : )	( : )	( : )		B	F↑－直		
年度ごとの目標値		1,800万 m3	1,900万 m3 (令和2 年度)	2,100万 m3	2,200万 m3	2,300万 m3	2,500万 m3	2,500万 m3			
把握の方法	出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の翌年度9月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標②【達成すべき目標】	細かなニーズに対応した柔軟な製品供給等、JAS製品の利用を促進										
測定指標	ア JAS製材(機械等級区分構造用製材)の認証工場数	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	97工場								
達成度合い		(A: 103%)	( : )	( : )	( : )	( : )		A	S↑－直		
年度ごとの目標値		90工場	94工場	98工場	102工場	106工場	110工場	110工場			
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度6月末頃 算出方法:林野庁調べのデータを基に試算。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
目標③【達成すべき目標】	横架材や羽柄材等での利用を拡大										
測定指標	ア 横架材用のラミナ及び羽柄材を含む国産材建築用材(ひき割類)の出荷量	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標－ 計算分類
		30年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	1,700千 m3 (令和2 年度)								
達成度合い		(B:83%)	( : )	( : )	( : )	( : )		B	F↑－直		
年度ごとの目標値		2,036千 m3	2,059千 m3 (令和2 年度)	2,080千 m3	2,090千 m3	2,100千 m3	2,110千 m3	2,110千 m3			
把握の方法	出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の翌年度9月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											

施策(3)	都市等における木材利用の促進										
目標①【達成すべき目標】	公共建築物等の木造化・内装の木質化を推進										
測定指標	ア 公共建築物の木造率	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	13.9% (令和2年度)								
	達成度合い	(A:93%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値	13.8%	15% (令和2年度)	17%	18%	19%	20%	20%	A	F↑一直		
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度3月末頃 算出方法:「国土交通省建築着工統計調査」のデータを基に試算。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
施策(4)	生活関連分野等における木材利用の促進										
目標①【達成すべき目標】	生活関連分野等への木材利用を促進										
測定指標	ア 木材を購入する際、国産材であることを重視する人の割合	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度			
		実績値	21.6%								
	達成度合い	(A:98%)	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値	20%	22%	24%	26%	28%	30%	30%	A	F↑一直		
把握の方法	出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の3月末頃 算出方法:アンケート調査により認知度を集計し、達成状況を把握。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満										
備考											
測定指標	イ 「ウッド・チェンジロゴマークの使用登録数」に係る指標 (令和4年度に設定)	年度	基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		P年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	P年度			
		実績値	-								
	達成度合い	-	( : )	( : )	( : )	( : )					
年度ごとの目標値	P	-	P	P	P	P	P	-	P		
把握の方法	出典:- 作成時期:- 算出方法:-										
達成度合いの判定方法	-										
備考											

施策(5)		木質バイオマス(注2)の利用									
目標①【達成すべき目標】		燃料材の安定供給									
測定指標	ア 国産の燃料材利用量【再掲】	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値	/	893万 m3 (令和2 年度)					/		
	達成度合 い	/	(A: 128%)	( : )	( : )	( : )	( : )	/	A	F↑一直	
年度ごとの目標値		693万 m3	700万 m3 (令和2 年度)	740万 m3	760万 m3	780万 m3	800万 m3	800万 m3			
把握の方法		出典:木材需給報告書 作成時期:調査年度の12月末頃 算出方法:木材需給報告書のデータにより把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
目標②【達成すべき目標】		新素材の研究・技術開発を推進									
測定指標	ア 新素材の開発・実証件数	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	毎年度		
		実績値	/	3件					/		
	達成度合 い	/	(A: 100%)	( : )	( : )	( : )	( : )	/	A	F↑一直	
年度ごとの目標値		2件	3件	3件	3件	3件	3件	3件			
把握の方法		出典:林野庁調べ 作成時期:調査年度の翌年度7月頃 算出方法:補助事業終了後の成果報告書等にて技術や製品の開発・実証の状況を判定									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											
施策(6)		木材等の輸出促進									
目標①【達成すべき目標】		付加価値の高い木材製品の輸出への転換									
測定指標	ア 製材・合板の輸出額	基準値		実績値・達成度合い					目標値	達成	指標一 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値	/	176億円					/		
	達成度合 い	/	(A: 100%)	( : )	( : )	( : )	( : )	/	A	F↑一直	
年度ごとの目標値		125億円	176億円	209億円	249億円	296億円	351億円	351億円			
把握の方法		出典:貿易統計(財務省) 公表時期:調査年度の3月頃 算出方法:貿易統計中 HS4407、4412、4413の年内の合計値									
達成度合いの 判定方法		達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク:150%超、Aランク:90%以上150%以下、Bランク:50%以上90%未満、Cランク:50%未満									
備考											

施策(7)	消費者等の理解の醸成										
目標①【達成すべき目標】	消費者等の理解を醸成、合法伐採木材の流通量を増加										
測定指標	ア 木材を購入する際、国産材であることを重視する人の割合【再掲】		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		21.6%							
	達成度合い		(A:98%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値			20%	22%	24%	26%	28%	30%	30%	A	F↑-直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の3月末頃 算出方法: アンケート調査により認知度を集計し、達成状況を把握。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度の実績(見込)値/当該年度の目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考											
測定指標	イ 第一種登録木材関連事業者が取り扱う合法性が確認できた木材の量		基準値	実績値・達成度合い					目標値	達成	指標- 計算分類
		年度	元年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	7年度		
		実績値		2,968万 m3 (令和2年度)							
	達成度合い		(A:91%)	( : )	( : )	( : )	( : )				
年度ごとの目標値			3,035万 m3	3,254万 m3 (令和2年度)	3,693万 m3	3,912万 m3	4,131万 m3	4,350万 m3	4,350万 m3	A	F↑-直
把握の方法	出典: 林野庁調べ 作成時期: 調査年度の翌々年度4月(暫定値は調査年度の翌年度12月下旬頃把握予定) 算出方法: 登録実施機関による年度報告により把握。令和3年度実績値が把握できていないため、令和2年度実績値を用いて評価を実施。										
達成度合いの判定方法	達成度合い(%)=当該年度実績(見込)値/当該年度目標値×100 A'ランク: 150%超、Aランク: 90%以上150%以下、Bランク: 50%以上90%未満、Cランク: 50%未満										
備考	指標の算出方法及び令和7年度の目標値(4,350万m3)は変更しないものの、令和元年度の合法性が確認された木材の量の値に誤りがあり、また、各年度の目標値は、基準年度との差を均等配分して定めていたため、年度ごとの目標値についても修正する必要が生じた。										

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分)	③相当程度進展あり
	測定指標についての要因分析 (達成度合いが悪い場合等) 【施策の分析】	<p>(判断根拠) 政策分野②「林産物の供給及び利用の確保」については、測定指標数13個のうち、Aが9個、Bが2個、Cが0個となっており、A'、A及びB(ただし、前年度の実績値を下回った指標を除く)が半数以上、かつ、Cが4分の1以下であることから、令和4年度農林水産省政策評価実施計画に基づき、「③相当程度進展あり」と判定した。</p> <p>【(X)⊗( )】測定指標名</p> <p>① 施策(政策分野)及び測定指標をめぐる社会の動向</p> <p>② 測定指標の目標達成に向けた主な取組</p> <p>③ 目標の達成状況に影響したと考えられる要因の分析</p>	
	次期目標等への反映の方向性	【(X)⊗( )】測定指標名	

学識経験を有する者の知見の活用	
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	
---------------------------	--

評価結果の政策への 反映状況 (主なもの)	予算	
	税制	
	その他 (法令、組織、定員等)	

担当部局名	林野庁 【林野庁木材産業課/木材利用課/研究指導課/経営企画課/業務課/企画課】	政策評価実施 時期	令和4年8月
-------	---	--------------	--------

## 参 考

### 用語解説

注1 川上と川中 (川下)	川上は原木を供給する森林所有者や素材生産事業体、川中は原木を加工して木材製品を生産する製材・合板工場等の木材産業事業者、川下は木材需要者である住宅建設事業者やバイオマス発電事業者等を指す。
注2 木質バイオマス	主に、樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類がある。

※ 測定指標の詳細については令和3年度事前分析表、政策手段については令和4年度事前分析表をご覧ください。